



こちらをご覧ください
しまねリハビリテーションネットワークHP

NO. 01

2024/2/22



広報誌

しまねリハビリテーションネットワークだより

編集：しまねリハビリテーションネットワーク事務局広報担当

令和5年度	しまねリハビリテーションネットワーク会議開催報告	2
令和5年度	しまねリハビリテーションネットワーク研修会開催報告	4
令和5年度	しまねリハビリテーションネットワーク 訪問リハビリテーション研修会報告・編集後記	6



(写真：岡村健司)

ミッション：その人らしく“生きる・活きる”地域を目指して

リハビリテーションとはどのような状態であってもその人らしく「生きる」「活きる」ための取り組み全てを意味します。私たちは地域住民・行政関係機関・多くの専門職団体等と連携を深め、この取り組みを地域ごとに進めることで多様な人々が共に希望を持ちながら暮らすことができる社会を目指します。

スローガン：1. 「共に学ぶ」 2. 「共に動く」 3. 「共に育て・支える」

しまねリハビリテーションネットワーク会議開催の目的と今後に向けて

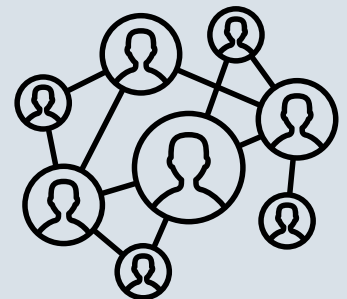
しまねリハビリテーションネットワーク 会長 加茂昌子

「しまねリハビリテーションネットワーク」という名称には、地域リハビリを進めていく上でリハビリ3職種はもちろんのこと、その他、多団体の皆様や行政、地域住民の皆様とのネットワークを築いていきたい、大切にしていきたいという思いが込められています。当会のミッション・スローガンとして、その人らしく”生きる・生きる“地域を目指して、「共に学ぶ」「共に動く」「共に育て・支える」を掲げています。ミッション・スローガンに込めた意味を感じ取っていただきながら、当会の活動に一人でも多くの皆様が賛同していただき、一緒に地域リハビリを盛り上げてくださることを願っています。会議では、まずは各団体の皆様の活動をお聞かせいただき、お互いに理解を深め、その上で一緒に取り組めることは何か、どのように進めていくことが出来るかといったことが話し合える場となるものと考えます。また、当会は県内を7つの保健所単位に分けたブロック制を取っております。各ブロック単位でも多団体の皆様との連携が図れるようになることを願います。今日は初めの1歩ですが、当会にとっては大きな1歩になることは間違いありません。これからも机上の議論のみで終わらずに、実際の地域の中で一緒に活動できることを願っています。

しまねリハビリテーションネットワーク会議開催報告

日時：2023年9月9日（土）10:00～12:00

会場：ホテル白鳥 鳳凰の間



1.開会挨拶（副会長 藤井寛幸）

2.参加者自己紹介

3.しまねリハビリテーションネットワーク紹介・本会議趣旨説明

構成団体、協力団体の皆様と限られた資源の中で様々な活動を一緒に取り組んでいきたいと考えています。当会の職能推進局は各保健所単位でブロックを設け、チームで市町村を支援し、誰もがその人らしく住める地域を目指すことを目標としています。

しかし、現状では他の職能団体でどのような取り組みをされているか知る術がないことやどんなことをしているか集約できていない現状があります。職能団体をネットワークで繋ぎ、情報共有を行い共に参画しやすいようなネットワーク作りを進めていきたいと考えています。静岡、埼玉にもこのような連合団体があり、その団体が定めたカリキュラムがあり、県が認証を与えているものもあります。将来的には本組織も共通プログラムも検討していきたいと考えています。

今後も構成団体・協力団体が集まり課題や情報の共有の会議を設けてつながりを深めていきたいと考えていますので、どうぞよろしく願いいたします。

4. 島根県内市町村における地域包括ケアに関する状況

島根県の市町村ごとの65歳以上人口の割合は約3～5割、平均余命・自立期間は男女ともに伸びてきていますが圏域の格差はあります。2045年には75歳以上の後期高齢者は60.5%になる見込みです。介護が必要になった時ではなく、自立されている時に介護を要しない体・心の健康づくりを意識した生活が重要となってきます。また、元気な方を早い年齢で通いの場に繋ぐことも重要です。今後は自立している時から地域を巻き込み介護予防を行うか、また通いの場等に参加していない方に対しては、その方の思いに寄り添ってどのようなアプローチが必要かを共に考えていきたいと思っております。



島根県健康福祉部 高齢者福祉課
地域包括ケア推進室 中島和子 氏

通いの場では個人や事業成果について評価に困っている声があります。参加される時にはケア会議は個別会議、推進会議がありあらかじめどのような内容かを把握した上で参加していただくと議論も進みやすいと思っております。ケア会議では様々な職種の方が参加されるので、ぜひ多職種の良いところを探して仲良くなりましょう。

5. 構成団体及び協力団体から地域包括ケア・災害支援・医療介護連携に関する取り組みの概要共有

島根県医師会（書面共有）

島根県歯科医師会

島根県栄養士会

島根県介護支援専門員協会

島根県地域包括支援センター連絡会（書面共有）

島根県在宅保健師等の会「ばたんの会」

島根県歯科衛生士会

島根県作業療法士会

島根県言語聴覚士会

島根県理学療法士会



島根県歯科医師会 理事 前田憲邦 氏

島根県医師会島根県歯科医師会、島根県栄養士会、島根県介護支援専門員協会、島根県在宅保健師の会「ばたんの会」、島根県歯科衛生士会、島根県作業療法士会、島根県言語聴覚士会、島根県理学療法士会の皆様に共有いただきました。とても有益な情報ばかりで今後も、こういった職能団体ごとに取り組みの共有を継続していきたいと考えています。

《今後に向けて》

- ①定期的に職能団体ごとに取り組みの共有を継続したい。今後、圏域ごとの開催を目指したい。
- ②地域包括ケア・医療介護連携・災害支援対策などの人材育成、研修会などは一体的に行っていきたい。情報共有を行って互いに参加しあう形を作りたい。
- ③将来的には政策に関する提言や人材育成の認証制度の取り組みを進めたい。



-しまねリハビリテーションネットワークリーフレット
島根県の形に準え、地域で誰もがその人らしく住める思いを込めて-

しまねリハビリテーションネットワーク研修会開催報告

- 行政説明（島根県健康福祉部 高齢者福祉課 地域包括ケア推進室）
- 情報提供（独立行政法人 労働者安全機構 島根県産業保健センター）

講演1：13:30～14:00 「共に学ぶ・共に動く・共に育て支える」

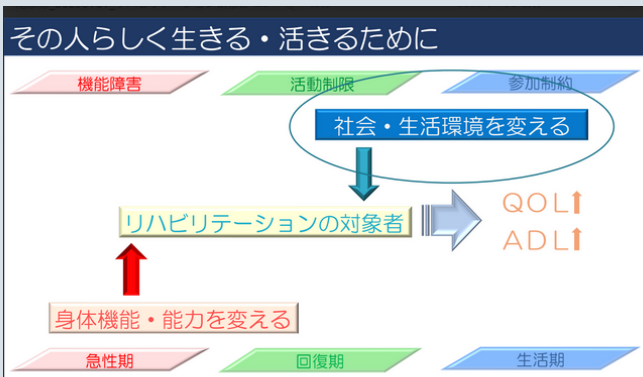
医療法人同仁会 理事長 櫻井照久 先生
（しまねリハビリテーションネットワーク顧問）

日時：2023年9月9日/10日
会場：ホテル白鳥 鳳凰の間

今「自立支援」と「尊厳の保持」を上位の目的として在宅医療と介護が一体的に提供される「地域包括ケアシステム」が推進されています。医療計画や介護保険法による都道府県介護事業支援計画・市町村の介護保険事業計画との整合性を確保し、関係機関が一体となって、増大する在宅医療の需要に対応しながら、お互いに支え合いながら、安心して住み続けられる「地域共生社会」の構築を目指すことが期待されます。

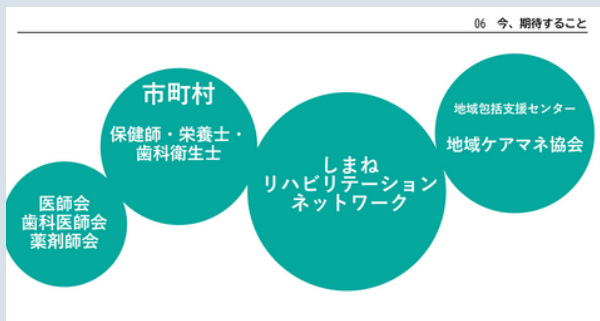


講演2：14:05～15:35 「その人らしく生きる・生きるための目的別車椅子シーティング」
川崎医療福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科 教授 藤田大介 先生



講演3：15:45～16:15 「地域におけるリハビリテーション専門職への期待」
島根県後期高齢者医療広域連合 尾添聡美 先生

今、期待すること
地域の今を知る/結果を出します
多職種と一緒に



講演4：16:20～16:50 「松江市失語症者支援センターの取り組み」
松江市失語症者支援センター センター長 門脇康浩 先生

まとめ

- ・松江市で失語症者向け意思疎通支援事業が始められ、失語症者の社会参加の制度ができたことは、当事者のみならず、我々言語聴覚士にとっても大変意義深い
- ・失語症者への支援が早く島根県全体に広がって欲しい



「地域ごとの課題や特徴的な取り組み・共有したいコトモノ」

ファシリテーター

職能推進局長 藤井寛幸 氏

松江ブロック理事	濱田 龍	氏
出雲ブロック理事	森脇繁登	氏
雲南ブロック理事	森山智博	氏
県央ブロック理事	藤原宗貴	氏
浜田ブロック理事	川上雄也	氏
益田ブロック理事	野村道徳	氏
隠岐ブロック理事	間 康一	氏



《参加者の声》

- ・ ネットワークのスローガンにも掲げられる『共に』の部分が今後発展していく期待が膨らみ、希望を肌で感じることができました。介護予防に限らず、多くの職種が通じ合い、手を取り合っていくことで、より関係性が深まっていくことを願っています。
- ・ 今後地域支援を行う上で、他圏域の実情を把握できたこと、リハ専門職以外の方もおられたことは非常に大きなことです。参考になる部分も多くあり、所属圏域に持ち帰られ今後更なる検討が進んでいくことかと思えます。そして、本日のような機会が今後も続くことが何より心強く感じます。

訪問リハビリテーション委員会研修会を開催しました。

共に生きる 共に支える～小児・精神科 訪問看護とリハビリテーション～

令和6年1月14日、共に生きる 共に支える～小児・精神科 訪問看護とリハビリテーション～と題して研修会をzoom開催致しました。参加者は介護領域、療法士をはじめ、看護師、保健師等の多職種にわたりご参加いただきました。各講義、非常にわかり易く活動をお伝え頂き、グループワークも盛り上がり、沢山の意見が出ていた様です。今回は普段接点が無い領域の皆様と学びや情報を共有しました。それぞれの活動や課題を確認する中で必要とされている事が何であるかが見えてきた様に思います。今回のご縁を大切に横の繋がりを更に深め、お互いが協力しあえる形が出来ればと考えています。

日時：2024年1月14日

会場：ZOOM開催

主催：訪問リハビリテーション委員会



《編集後記》

しまねリハビリテーションネットワークだよりをお読みいただきありがとうございました。本号では当会の取り組みの第一歩として9月に行われた、会議・研修会の様子をお伝えしました。次年度からは各ブロック単位での取り組みが始まる予定です。今後も当会の取り組みや研修会の予定など地域のリハビリテーションに役立つ情報を発信してまいりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

事務局広報担当